

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

「星と雪の装飾おりがみ」

布施 知子 著

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



親子で楽しめる星や雪のおりがみです。カードや部屋の装飾にいかがですか？

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



「なぜ、この人と話をするのが楽しくなるのか」

吉田 尚紀 著

ニッポン放送の人気アナが20年かけて編みだした相手を楽にさせる実践的な会話の技術を披露します。

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungo
なかしまぶんげい

創生短歌会

身に積もる疲れの嵩と朽ちてゆく彼岸花ありいずれも哀れ
竹之内重信
ひらがなに綴り来し母の手紙にて眠る時読み覚めて又読む
石原百合子
歩行機にすがり試歩する先患が硝子戸越しにわれ
野村 益信
に手を振る
この宵の思いがけなき恵みにて玻璃戸を越して月影届く
大塚 洋子
となり家は空家となりぬ軒下の紅きてまりに秋雨降る
宮元 司
はらみたる猫がゆつくりうづくまる秋日を追いて所かえつつ
山下 学
生きて知る心の歪み身の歪みもろの悪生みてかなしも
村上 義彦

一般作品

「短歌」

弟はペットボトルで風ぐるまモグラ逃げろやゲル
小林 貢
グルまわる
柿熟れてつぐみかしまし枝先に我れも仲間と鴨の来る
小林 繁
川の工事白鷺じつと見つめ居りこの先のこと不安げに立つ
中仮屋辰子
目閉すれば木戸の太木背戸の井戸遠きに在りてありし日のまま
平木 良雄
年取れば一事あれば気になるや事納まるとすつきりするや
町田 末則
「俳句」
稲刈を終へし安堵や夜の雨
桐野 眞実

長島短歌会

十五夜の月は曇りて見へざれど夜半に煌煌と天心にあり
坂之下典子
息子の植系し金木犀は五年経ち窓を開ければ香り流れ来
中山タマエ
朝夕は冷えて痛みしわが足に来る冬思ふ夜半の目覚めに
濱田美代子
沢ひとつ越へし向こふは荒田にて渡来の黄花すがしく群るる
浜畑 松枝
何処より匂ひ来らむ木犀の甘き香りを秋風はこぶ
松元 睦子
競市に運ばるる牛を送らんと歩くが如き手に手合はず
市尾 操
年を経て大株となりし萩の花揺られて曲がり砂に触れ居る
岩下 ち江
コスモスは嶺ゆるやかな高原に天近きまで咲き匂ひをり
岩下 房代
緑濃き左右の葉間に紅色の丸き蕾もつアメリカ椿
榎平 頼子
木屋は小木ながらたちまちに家を包みし薫り深けれ
米尾 和子

明神俳句会

灘のいろ深まるころや鶴待てり
淵脇 護
病む猫とさしみ分け合ひ敬老日
二階堂妙子
停電の三日ニタ夜の暑さかな
迫口 君代
遠泳や喘ぐ河童の一屯
筑前 初市
一人居の狭庭に赤き夏えびね
大堂 早苗
太綱を封じ込めたり今年米
大堂 光幸
秋桜や諦めかけし嬰生るる
関 佳代美
夕暮のあかね色なり海の秋
坂口 静子
賞もなく金もなく老ゆ文化の日
二階堂恵子
命日や雲をはるかに彼岸花
山寄加代子
空青く伊勢えび祭りの幟立つ
大堂 正弘